

## 早稲田大学 人間科学部 政治・経済 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問4題は例年と同じ。政治と経済から2題ずつ。 問題文が長く、設問数も多く、難問も多い。しかし、難問が少しずつ減少している。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	英米の政治機構と 日本の国会	問2(1)：議員立法の提出割合と成立率を具体的数字であげるの のは難しい。問5：ドイツの内閣不信任のしくみは、通常の授 業で採りあげることにはなかった。問7(1)は消去法で、(2)は ていねいな学習で解ける。問10は細かい。選挙結果をどこまで 覚えておくかの目安となる。他は基礎・標準的知識を活用して 解ける。	標準
	グローバリズムと リージョナリズム	問1・2・5・6・8・10は細かい。ここまで覚えるのか、と いう感じ。問3は論理的な思考を問うている。他は基礎・標準 的。	難
	地球環境問題	問3・14は細かい。他は基礎・標準的だが、政経に限定されな い幅広い知識が必要である。政経で早稲田をめざす受験生なら、 これくらいの知識と推理力は身につけておこう。	標準
	冷戦終演後の国際 政治	問4(2)：東欧諸国の首都名は地理の問題だろう。他は一見細 かいと思われるものもあるが、ていねいな学習を重ねていれば、 フォローできるはず。	標準

### 〔総合コメント〕

<p>難問は少しずつ減少してきているが、問題数が非常に多いのは変わらない。解答にあたっては基礎的標準的知識を駆使して、文章の中からヒントを探し出し、粘ることが必要だろう。いわゆる難問に目が行きがちだが、基本的な問題を取りこぼさないように基礎を固めることが必要である。その上で、過去の問題を解き「ここまで出題されるんだ」ということを実感し、その内容を教科書・用語集・資料集などで確認しながら、基礎・標準的知識に上乘せしてゆくことが必要である。そして新しい事項については、新聞のニュース解説を読む努力を惜しまないことだ。</p>
--